

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類新世代の発生状況（技術情報第 13 号）について（送付）

果樹カメムシ類について、ヒノキ球果の口針鞘数は県内 9 地点の平均が 25 本を超え、一部の果樹園では被害が確認されているため、今後の発生に注意が必要です。

記

1. 対象作物：カンキツ類、カキ、ナシ

2. 発生状況：

1) チャバナエアカメムシの予察灯における誘殺数は、合志市では 8 月 4 半旬に離脱開始と思われるピークが見られたが、天草市では 8 月 2 半旬以降減少している（図 1）。また、8 月第 1～6 半旬の累積誘殺虫数は、合志市が平年並、天草市が平年比やや少であった（表 1）。

2) ヒノキ球果に寄生する新世代成幼虫数は、8 月上旬をピークに減少し、8 月中旬には 1.6 頭／5 枝（平年値 3.6 頭／5 枝）と平年より少なかった（図 2）。

3) ヒノキ球果の口針鞘数は 7 月上旬から増加し、8 月中旬には 25.3 本／果（平年値 10.4 本／果）と平年より多く、7 月下旬に算出した離脱予想日より早く離脱時期に達した（図 3）。

4) 病虫害防除員の報告によると、ナシや極早生温州の一部で被害が認められている。

3. 防除上注意すべき事項：

1) 果樹カメムシ類は、主に山林のスギ・ヒノキ球果を餌として増殖する。球果の口針鞘数が 25 本／果を超えると餌の状態が悪くなり、増殖場所から離脱して周辺の果樹園に飛来する。

2) 本年は口針鞘数が 25 本に達するのが早く、離脱は既に始まっていると思われる。一部の園では被害も確認されているため、今後の園内での発生に十分に注意する。

3) カメムシ類の発生時期や飛来量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在するので、園内を観察し早期発見、早期防除に努める。なお、カメムシ類は夜になると園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。

4) 被害が認められた場合は直ちに防除を実施するが、薬剤の使用回数、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。

5) 薬剤散布により、ハダニ類、カイガラムシ類が増加する場合がありますので注意する。

表1 各地域におけるチャバネアカメムシの誘殺状況(8月第1~6半旬合計)

地域名	予 察 灯
合 志	739 (774)
天 草	2,807 (5,003)

単位：頭、()は平年値

天草は、故障のため8/29~31まで欠測。

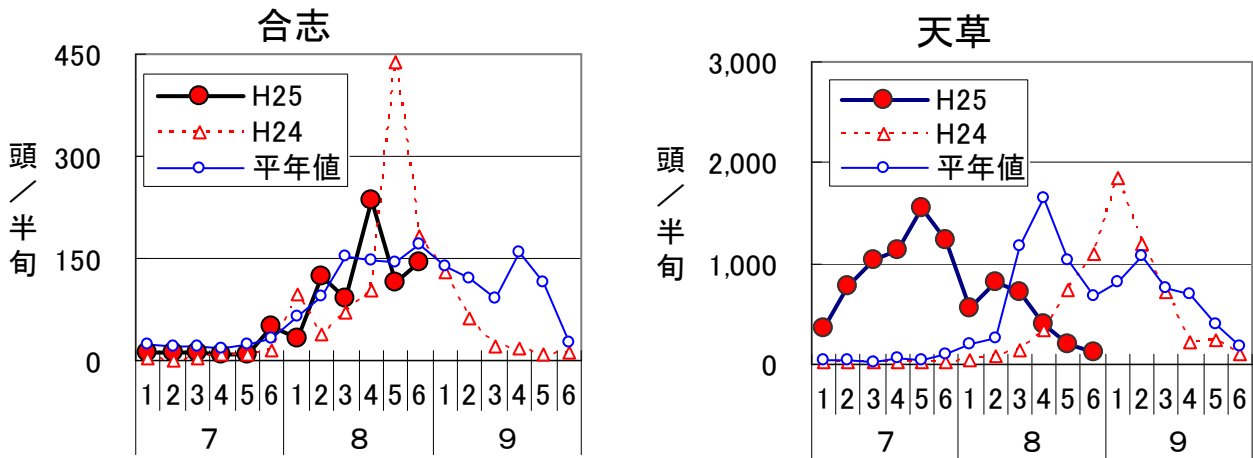


図1 予察灯によるチャバネアカメムシ誘殺数の推移

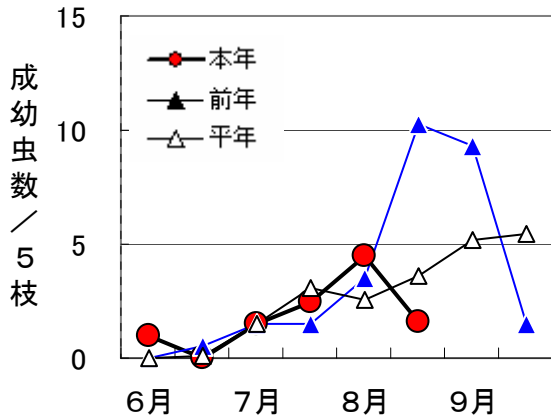


図2 ヒノキ球果に寄生する成幼虫数の推移(ビーティング調査)

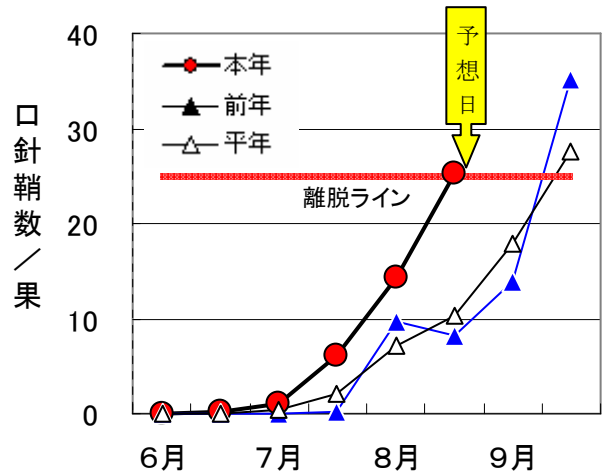


図3 ヒノキ球果口針鞘数の推移

問い合わせ先
 熊本県病害虫防除所
 (生産環境研究所)
 担当:清永
 TEL 096-248-6490